

記憶する、伝える、繋がる

—災害伝承における多様性と男女共同参画—

仙台防災枠組では、ジェンダーを含む多様な主体が防災や復興に参画する必要性が示され、国内でも多様な視点からなる復興の重要性が広く認識されるようになった。東日本大震災から10年、被災地の現状はどうなっているのだろうか。将来の防災教育につながる「記憶と記録の場」として、東日本大震災の公共の伝承施設が次々とオープンしている中、未曾有の大震災で女性たちが得られた震災の教訓がどのように伝承されているのかを検証する。

本フォーラムでは岩手、宮城、福島で伝承活動に関わっている女性たちと災害伝承についてジェンダーの視点から議論します。

第1部 研究報告

「ジェンダー視点から見る災害伝承館の課題と可能性
—岩手、宮城の4施設を中心に—」

小川真理子（東北大学「災害とジェンダー・多様性」研究チーム）

第2部 災害を伝える女性たちの声

福島県富岡町	田中美奈子
宮城県石巻市	千葉直美
岩手県陸前高田市	浅沼ミキ子
岩手県大槌町	岩間敬子
ファシリテーター	李善姫



2021年2月27日（土） 10:30～12:30
オンライン開催 (Zoom)

申込方法：事前登録制[2月25日（木）締切]

<https://forms.gle/EXJyzK3P8XBW9mcA6>

シンポジウムの参加のためのリンクは登録者に2月26日にメールでお送りします
当日参加も受け付けております

◆「災害とジェンダー・多様性」研究チームは指定国立大災害科学世界トップレベル研究拠点の「災害人文学」に関わっている女性研究者で構成されています。学外の研究者も大歓迎です。

◆なお本研究は、2020年度東北大学若手アンサンブル研究グラントに採択されています。

主催：東北大学東北アジア研究センター災害人文学
「災害とジェンダー・多様性」研究チーム

問い合わせ先：李善姫（いそんひ）

TEL 022-795-3842 sunhee.lee.d2@tohoku.ac.jp

